

平成 29 年度

病虫害発生予察情報 第6号

5月月報

北海道病虫害防除所 平成 29 年6月 15 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・少雨・並照』天気・気温の変動大－

この期間の天気は、上旬は高気圧の張り出しの中となつて晴れた日が多かった。中旬以降は高気圧の張り出しの中で晴れた時期と、低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の降った時期が交互に現れた。また、4 日と 19～20 日は各地で最高気温が 30 度以上となつた一方、中旬以降に平年を大きく下回る時期もあるなど、気温の変動が大きかった。気温は上旬と下旬は平年よりかなり高く、中旬は高く、月平均気温はかなり高かった。降水量は上旬は平年よりかなり少なく、月降水量は少なかった。日照時間は上旬は平年よりかなり多かったが、下旬は少なく、月間日照時間は平年並だった。なお、上旬の太平洋側の日照時間は、1961 年の統計開始以降で最も多かった。

上旬：1 日は気圧の谷の影響により日本海側北部やオホーツク海側北部などで雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて太平洋側を中心に晴れた所が多かった。2～5 日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。6 日ははじめ高気圧の張り出しの中となつてオホーツク海側を中心に晴れた所があったが、前線が通過し日本海側や太平洋側西部では雨の降った所が多かった。7 日は気圧の尾根の中となつて晴れた所が多かったが、次第に気圧の谷の影響により日本海側北部やオホーツク海側北部などで雨の降った所があった。8 日は気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて日本海側南部や太平洋側では晴れた。9 日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。10 日ははじめ高気圧の張り出しの中で広い範囲で晴れたが、次第に気圧の谷が接近しオホーツク海側南部や太平洋側などでは雨の降った所もあった。

中旬：11 日は低気圧の影響により広い範囲で雨が降った。12 日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて日本海側や太平洋側では晴れた所が多かった。13 日は高気圧の張り出しの中となつて日本海側では晴れた所が多かったが、気圧の谷が次第に接近し渡島半島などでは雨が降った。14 日は日本海側北部やオホーツク海側で晴れたが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。15～16 日は上空に寒気を伴った低気圧や気圧の谷の影響により全道的に雨が降った。日降水量は 15 日に白老町高砂町で 127.5mm など。17 日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れたが、上空の寒気の影響で雨の降った所もあった。18～20 日は高気圧の張り出しの中となつて全道的に晴れた。

下旬：21 日は高気圧の張り出しの中となつて広い範囲で晴れたが、日本海側では雨の降った所もあった。22 日は気圧の谷の影響でオホーツク海側を中心に雨の降った所があったが、太平洋側では晴れた所もあった。23 日は低気圧や気圧の谷の影響で日本海側北部やオホーツク海側などで雨が降ったが、晴れた所もあった。24 日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かったが、晴れた所もあった。25 日は気圧の谷の影響により太平洋側東部などで雨が降ったが、日本海側を中心に晴れた所が多かった。26 日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、日本海側では概ね晴れた。27～28 日は上空に強い寒気を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は 27 日に登別市札内町で 45.0mm など。29 日ははじめ上空に強い寒気を伴った気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れた。30 日は高気圧の張り出しの中となつて概ね晴れた。31 日は気圧の尾根の中となつて太平洋側を中心に広い範囲で晴れたが、気圧の谷の影響で雨の降った所もあった。

気象表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	+1.7	か高	68	少	105	並
日本海側 10 地点平均	+1.6	か高	61	少	103	並
オホーツク海側 4 地点平均	+2.1	高	58	少	96	並
太平洋側 8 地点平均	+1.7	か高	82	少	111	多

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の 3 段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「か(かなり)」で表します。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. ヒメトビウンカ 発生期 並（第1回成虫） 発生量 やや少

予察田の畦畔すくい取りによる幼虫の捕獲頭数は、比布町では平年より少なかった。長沼町および北斗市では捕獲されなかった。畦畔すくい取りによる第1回成虫の初発期は、長沼町で5月4半旬（平年：5月4半旬）、比布町で5月4半旬（平年：5月4半旬）、北斗市で5月3半旬（平年：5月3半旬）と、いずれの地点も平年並であった。成虫の捕獲頭数は、比布町で平年よりやや多かったが、北斗市で平年並、長沼町では平年より少なかった。

畦畔におけるヒメトビウンカのすくい取り数

月・半旬	長沼町				比布町				北斗市			
	幼虫		成虫		幼虫		成虫		幼虫		成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5月1半旬	0	4.4	0	4.3	5	17.6	0	0.6	0	0.0	0	0.3
2半旬	0	5.3	0	22.0	0	10.5	0	0.1	0	0.0	0	0.3
3半旬	0	2.3	0	14.8	0	7.3	0	2.4	0	0.3	2.5	1.8
4半旬	0	0.8	2.5	20.6	0	8.8	5.0	11.4	0	0.0	0	1.5
5半旬	0	0.8	5.5	5.1	0	7.0	22.5	27.1	0	0.0	0	0.5
6半旬	0	0.0	0	3.1	0	2.1	55.0	21.5	0	0.0	0	0.0
平年数	5		5		10		10		10		10	

注)20 回振り×5 日分換算値

B. 秋まき小麦

1. 赤さび病 発生期 やや早 発生量 並

予察ほの「きたほなみ」における初発期は、長沼町および訓子府町で平年より早く、芽室町で平年より遅かった。発生量は、いずれの地点においても平年並であった。

一般ほにおける巡回調査結果では、全 115 地点において発生は認められていない。

予察ほにおける赤さび病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	きたほなみ	4月25日	5月8日	7
芽室町	きたほなみ	5月26日	5月8日	8
訓子府町	きたほなみ	5月7日	5月22日	8

予察ほにおける赤さび病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)					
			5 月 2 半旬		5 月 4 半旬		5 月 6 半旬	
			本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	きたほなみ	全葉	0.01	0.02	0.03	0.09	0.27	0.16
		最上位葉	0	0	0	0	0	0.01
		最上-1 葉	0	0	0	0	0.04	0.03
芽室町	きたほなみ	全葉	0	0.01	0	0.02	0	0.02
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1 葉	0	0	0	0.01	0	0.001
訓子府町	きたほなみ	全葉	0.002	0.004	0.03	0.001	0.002	0.01
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1 葉	0	0	0	0	0	0

一般ほにおける赤さび病の巡回調査結果

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
空知	本所	0	0
	南東部	0	0
	南西部	0	0
	中空知	0	0
	北空知	0	0
石狩	本所	0	0
	北部	0	0
後志	本所	0	0
胆振	本所	0	0
	東胆振	0	0

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
檜山	本所	0	0
	北部	0	0
上川	本所	0	0
	富良野	0	0
	大雪	0	0
	士別	0	0
	名寄	0	0
留萌	本所	0	0

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
網走	本所	—	0
	清里	—	0
	網走	0	0
	美幌	—	0
	遠軽	—	0
	紋別	—	0
十勝	本所	0	0
	東部	0	0
	東北部	0	0
	北部	0	0
	西部	0	0

注 1) —:調査時期外のため未調査

注 2) 病葉率:最上位葉の 1 枚下の葉の病葉率

2. うどんこ病 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察ほにおける感受性品種「チホクコムギ」の初発期は、長沼町および芽室町では平年より遅く、訓子府町では平年並であった。発生量は、長沼町および芽室町では平年に比べ少なく、訓子府町では平年並であった。

一般ほにおける巡回調査結果では、1地点で最上位葉の1枚下の葉に発生が認められたが、その発生量は少なかった。他の114地点では発生は認められていない。

予察ほにおけるうどんこ病の初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	5月8日	4月27日	10
	きたほなみ	未発生	5月8日	7
芽室町	チホクコムギ	5月29日	4月26日	10
	きたほなみ	未発生	5月11日	8
訓子府町	チホクコムギ	5月2日	5月1日	10
	きたほなみ	5月8日	5月8日	8

予察ほにおけるうどんこ病の発生状況

地点	品種名	調査葉位	病斑面積率(%)					
			5月2半旬		5月4半旬		5月6半旬	
			本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	チホクコムギ	全葉	0	1.30	0.02	3.33	0.08	5.24
		最上位葉	0	0.01	0	0.002	0	0.04
		最上-1葉	0	0.29	0	0.33	0.08	1.06
	きたほなみ	全葉	0	0.04	0	0.08	0	0.08
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1葉	0	0	0	0	0	0.02
芽室町	チホクコムギ	全葉	0	1.01	0	2.17	0.01	4.98
		最上位葉	0	0.04	0	0.20	0	0.32
		最上-1葉	0	0.48	0	1.18	0.02	3.58
	きたほなみ	全葉	0	0.06	0	0.07	0	0.06
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1葉	0	0.02	0	0	0	0.01
訓子府町	チホクコムギ	全葉	3.53	2.76	2.60	2.52	2.39	3.43
		最上位葉	0	0	0	0	0	0.01
		最上-1葉	0	0	0	0	0	0.01
	きたほなみ	全葉	0.02	0.03	0.03	0.05	0.01	0.11
		最上位葉	0	0	0	0	0	0
		最上-1葉	0	0	0	0	0	0

一般ほにおけるうどんこ病の巡回調査結果

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
空知 本所	本所	0	0
	南東部	0	0
	南西部	0	0
	中空知	0	0
	北空知	0	0
石狩 本所	本所	0	0.38
	北部	0	0
後志 本所	本所	0	0
	東胆振	0	0

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
檜山 本所	本所	0	0
	北部	0	0
上川 本所	本所	0	0
	富良野	0	0
	大雪	0	0
	士別	0	0
	名寄	0	0
留萌 本所	本所	0	0

普及センター		病葉率(%)	
		5 月	
		3 半旬	6 半旬
網走 本所	本所	—	0
	清里	—	0
	網走	0	0
	美幌	—	0
	遠軽	—	0
	紋別	—	0
十勝 本所	本所	0	0
	東部	0	0
	東北部	0	0
	北部	0	0
	西部	0	0

注 1) —:調査時期外のため未調査

注 2) 病葉率:最上位葉の 1 枚下の葉の病葉率

C. 春まき小麦

1. ムギキモグリバエ 発生期 並 発生量 やや多

予察ほのすくい取りによる成虫の初発期は、比布町で 5 月 18 日（平年：5 月 22 日）と平年よりやや早く、長沼町で 5 月 25 日（平年：5 月 21 日）と平年よりやや遅かった。すくい取り数は、比布町で平年より多く、長沼町では平年並であった。

予察ほにおけるムギキモグリバエのすくい取り数

月・半旬	長沼町		比布町	
	本年	平年	本年	平年
5 月 4 半旬	—	1.3	10.0	9.6
5 半旬	4.0	8.3	27.5	35.8
6 半旬	8.8	11.1	120.0	55.3
平年数	5		8	

注 1)20 回振り×5 日分換算値

注 2)—は未調査

D. てんさい

1. テンサイトビハムシ 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察ほにおける被害の初発期は、訓子府町で 5 月 4 半旬（平年：5 月 4 半旬）と平年並、長沼町で 5 月 4 半旬（平年：5 月 3 半旬）、芽室町では 5 月 4 半旬（平年：5 月 3 半旬）と平年よりやや遅かった。被害程度は、訓子府町では平年よりやや低く、長沼町および芽室町では平年より低かった。

予察ほにおけるテンサイトビハムシによる被害程度

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5 月 1 半旬	—	2.2	—	2.9	0	1.0
2 半旬	—	4.3	0	4.0	0	0.9
3 半旬	0	8.3	0	5.9	0	4.4
4 半旬	0	15.5	0.3	7.8	2	8.3
5 半旬	0	21.3	2.5	9.9	8	13.7
6 半旬	0	26.8	6.0	11.9	19	17.6
平年数	10		10		9	

注) —は未調査

E. あぶらな科野菜

1. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は、芽室町では平年並で、長沼町および北斗市では平年より少なかった。訓子府町では5月4半旬まで平年よりやや少なく、5半旬以降平年より多くなった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5月1半旬	7.2	2.4	15	15.6	1	1.8	0.3	6.0
2半旬	4.8	11.8	4	27.4	5	2.3	1.7	5.7
3半旬	9.0	7.9	10	44.6	6	4.7	1.0	6.8
4半旬	4.6	34.1	31	56.2	4	7.1	6.3	6.3
5半旬	4.6	49.7	33	86.0	17	17.7	31.7	9.1
6半旬	2.6	84.2	29	63.7	6	22.6	57.0	8.7
平年数	10		10		10		10	

F. りんご

1. モニリア病 発生期 — 発生量 少

長沼町と余市町の予察園では、本病の発生は認められなかった。

一般園における巡回調査結果では、発生は認められていない。

予察園におけるモニリア病の初発期

地点	品種名	防除有無	葉腐れ		花腐れ		平年数
			本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	無	未発生	5月26日	未発生	5月28日	8
余市町B	つがる	有	未発生	5月24日			10
余市町C	王林	有	未発生	—			—

予察園におけるモニリア病の発生状況

地点	品種名	防除有無	調査時期	花葉叢率(%)				平年 数
				葉腐れ		花腐れ		
				本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	無	5 月 1 半旬	0	0	0	0	8
			2 半旬	0	0	0	0	
			3 半旬	0	0	0	0	
			4 半旬	0	0.11	0	0	
			5 半旬	0	0.35	0	0.10	
			6 半旬	0	0.40	0	0.58	
余市町 B	つがる	有	5 月第 1 週目	0	0			10
			第 2 週目	0	0			
			第 3 週目	0	0.18			
			第 4 週目	0	0.34			
			第 5 週目	0	0.06			
余市町 C	王林	有	5 月第 1 週目	0	—			—
			第 2 週目	0	—			
			第 3 週目	0	—			
			第 4 週目	0	—			
			第 5 週目	0	—			

一般園におけるモニア病の巡回調査結果

普及センター		発病花葉叢数
後志	北後志	0
胆振	本所	0
渡島	本所	0
留萌	南留萌	0

注) 1 樹当たり発病花葉叢数、10 樹調査(開花直前)

2. ハマキムシ類 発生期 やや早 発生量 やや少

ミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化最盛期は、余市町で5月2日(平年:5月8日)と平年より早く、長沼町では5月8日(平年:5月5日)と平年よりやや遅かった。開花直前の被害花叢率は、長沼町で平年よりやや低かった。余市町では被害が認められなかった。

ハマキムシ類の越冬卵孵化状況と被害発生状況

地点	長沼町		余市町	
	本年	平年	本年	平年
ミダレカクモンハマキ孵化最盛期	5月8日	5月5日	5月2日	5月8日
開花直前被害花叢率(%)	3.0	7.4	0	0.1
平年数	10		10	

注) 長沼町は無防除、余市町は慣行防除

BLASTAM ならびに FLABS の運用について

今年も、水稻の葉いもち初発予測システム「BLASTAM(ブラスタム)」による広域発生期判定結果および、ばれいしょの疫病初発予測システム「FLABS(フラブス)」による予測結果を防除所のホームページに掲載します。

アドレス(<http://www.agri.hro.or.jp/boujiosho/>)または「北海道病害虫防除所」で検索してお入りください。

「BLASTAM」では、道内約50地点について、葉いもちの感染好適日を判定します。今年度の運用開始は6月20日頃を予定しています。

「FLABS」では、道内25地点の農作物生育状況調査ほ場(作況ほ)の萌芽日をもとに疫病の初発日予測を行います。

「BLASTAM」、「FLABS」とも随時更新していきますので、計画的な防除にお役立て下さい。

平成 29 年度

6月15日～8月31日は農薬危害防止運動実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調が優れないときや著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認する。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に注意して、洗浄を十分に行う。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ周辺住民等に周知するとともに、看板等を立てるなど現場に近づかないよう配慮する。
特に無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての事前周知に努める。
- 農薬の飛散による危害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び蜜蜂、河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法等については、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。